2023 年 10 月 22 日発行

大町山岳博物館友の会　第　197　号

ゆきつばき通信

友の会 45 周年！！　*もう一つの記念プレゼント*

山博友の会会長　宮澤 洋介

45 周年事業として去る 9 月に、幾多の困難を乗り越え国際的な登山家である大町高校出身の三戸呂拓也さんの講演会と記念登山を開催することができました。参加された方の声、「今までいろいろな講演会を聞いたが、今回が一番良かった、感動した」。終わってから同じような話を大勢の人に聞きました。企画に奔走された担当幹事には大変ご苦労さまでした。まさに大成功でした。

もう一つの 45 周年記念は、すでにお約束した記念の手ぬぐい。後立山連峰がデザインされ、百瀬慎太郎の「山を想えば・・・」の詩が入ったてぬぐいを会員全員にプレゼントします。本来、博物館売店での販売も計画しましたが、もともと大町山岳会にデザインの版権があり販売は難しく、友の会に限って無償配布の許可をいただいたものです。友の会のネーミングも入っていて、手ぬぐいとして使ってしまうのはもったいない気がします。

45 周年に合わせたわけではないですが、今年度より会費の大幅値下げをしました。そのためには仲間が増える必要があります。新規入会者にも手ぬぐいをプレゼントします。みんなで会員の勧誘をしましょう。

報　告　自然観察会 **栂 池 自 然 園**　(part2 感想文)

自然観察会 栂池自然園に参加して

仁科眞清

2023 年７月９日、友の会の行事で栂池自然園を訪れました。前日の天気の様子では中止かもしれないと思っていましたが、何とか行く事ができました。

風穴では冷たい風を感じるなど、栂池名物の自然を感じる事が出来ました。雲間からは青空が見え、小蓮華山の方まで望める瞬間もありました。

印象に残ったのは、ヒロハユキザサとヤマトユキザサの違いでした。ユキザサの類は見分けにくい印象があり、今回の茎の色で見分ける（ヒロハは緑色でヤマトは赤色）方法がとても分かりやすかったです。ただ、明確に種類が違うのにもかかわらず、同じ場所に生息していて棲み分けをしていなかったのは意外でした。思っているよりも、彼らは交雑しにくいのでしょうか。

今回の活動の中で、一つ全く分からなかったものがあります。自分が栂池自然園に行くとどういう訳か必ず天気が悪くなる、というジンクスです。それを破る事は出来ないままでした。一体何なんでしょうね。

栂池自然園自然観察会に参加して

早川維子

栂池自然園には冬のスノーシュー以外ではほとんど訪れたことがありませんでした。雨が降ったり止んだりの空模様でしたが、ときおり青空ものぞき周囲の山々も見渡せたので、ここら辺はどのあたりだろう…と雪の原を想像しながら園内を巡りました。

初めて見たオオシラビソの青く色づく松ぼっくりには心が躍りましたが、雄花が下方にあることを教えていただかなければ、その存在を気に留めることもなく、雄花を見つけることもなかったと思います。また、ニッコウキスゲの花の寿命が２日であることも知りませんでした。マルハナバチの受粉の様子など、今でも解説する時の千葉学芸員の手の動きが目に浮かびますが、「好き」を語る情熱に心を動かされました。用意してくださった資料も、学芸員の視点で観察するからこその不思議がたくさん詰まっていて興味深く読むことができました。美しいと目に留めるものが、学ぶことで

深く心に留まるものになることを、改めて考えさせられました。

「荒天中止」ということでしたが、山の上の天気は不安定な上に、途中で大雨になったらどうしよう…と、準備も当日の運営も大変だったと思います。企画していただき、ありがとうございました。行きの車中では雨で気持ちが萎えそうだったのですが、休日にも関わらず観光客が少なく、濡れ立つ新緑の木も花も生き生きと美しく、湿原を渡る霧の流れを肌で感じる素敵な一日となりました。

雨で良し　晴れで良し　日々是好日なり

大町山岳博物館　　**企画展　「大町と絶滅動物」**

近現代に大町や近隣地域で絶滅したとされる動物や、その動物と地域の人々の関わりを中心に、剥製等を用いながら解説します。

期間　：　令和５年 11 月３日～令和６年１月 28 日
※12 月以降、後述の様に開館時間の変更があります
（休館　：　毎週月曜日、祝日の翌日、年末年始）
場所　：　山岳博物館　特別展示室

講演会「ニホンオオカミを探し続けて 50 年」

講師　八木　博氏（ニホンオオカミを探す会代表）

企画展関連の講演会です。講師の八木博さんは、長年に渡ってニホンオオカミを探し続けた豊富なご経験から、ニホンオオカミに関する講演などをされているほか、「世界ふしぎ発見！」などのテレビにも出演されています。本講演会では、ニホンオオカミや、長きにわたってニホンオオカミを探し続けてきた様々なエピソードなどについてご講演いただきますのでぜひご参加ください。

開催日時　：　令和５年 11 月 11 日（土）　13:30～15:30（13:00 開場）
場所　：　市立大町山岳博物館　講堂
募集人員　：　先着 40 名　　対象　：　どなたでも　　費用　：　無料
募集期間　：　10 月５日～11 月 10 日まで
申し込み　：　市立大町山岳博物館へ電話・FAX・E メールまたは直接ご連絡を
電話：0261-22-0211　FAX:0261-21-2133　E メール：sanpaku@city.omachi.nagano.jp

---

報　告　友の会 45 周年記念行事　講演会　「山が教えてくれたこと」

《期　日》　9 月 2 日（土）　午後 3 時～午後 5 時
《場　所》　サン・アルプス大町　2 階大会議室
《参加者》　約 160 名
《講　師》　三戸呂拓也氏（登山家　国立登山研修所講師）

（講演会　役員報告）

かねてより話題に上っていた大町市出身の三戸呂拓也さんの講演会を、友の会 45 周年の記念事業として開催することができた。

三戸呂さんは大町高校の「山岳部」から明治大学の「山岳部」へ進み、曰く「山岳ユーティリティー」として山に関わる様々な分野でご活躍だ。

講演会は、まだ制限のあるサンアルプス大会議室いっぱいの、160 名ほどの参加をいただいた。市内はもとより、県内、県外からも参加者があり、ゆきつばき通信のほか、新聞や広報、そして三戸呂さんを知る方の参加が多かった。参加者の関心は高かったようで、また、今回の講演を聞いて今後もこのような企画への希望が多かった。参加者からは、「一番感動した講演会」「ピカイチ面白かった」等、有意義で感動したと多くの感想があった。大町出身ということもあり、皆さんの自慢の人となり、山がまた身近になったようだ。

中村教育長、鈴木館長のあいさつで講演に入った。

時代背景からも大学山岳部は大変だったという。ご講演から語録的に拾っていくと、主将を 2 年間勤め、「いいチームは各自の役割をしっかり把握し、そのうえでリーダーの考えを尊重できるチーム」。単独行が多かった時に誘われたカナダでのアイスクライミング遠征での経験から、「追い込まれたときにひと気合出せるかどうか、その大事なことをこの一日に学んだ」。仕事でもチームや団体に所属しても「いかに協力するかが、人生を楽しく、何かをやる時の障害を乗り越え、楽しみも生まれる」など。

2008 年、クーラカンリで先発隊が雪崩で全員死亡する事故が発生する。絶望で自分の中から登山が遠ざかっていくと感じたが、遺族から「良く帰ってきた、あの人の分も頑張って登って、頑張って生きて」と声をかけられ、「自己満足が温かい人達に支

えられて成り立ち、家族や地元の人たちには心配をかけており、誰かに支えられて人生を歩んでいる」ことに気づく。そして、「あいさつ、お礼はきちんと言えるようになろう」と心に刻む。大町について、「自然に囲まれて育ち生活している人は心豊かだ。物や人を大切に思い、つらい人、苦しんでいる人にそっと寄り添える」と語る。命ではなく人生を賭ける目標を探してもう少し悪あがきをするそうだが、締めには、「今日も、明日も、来年も、これからもずっと、明るく元気に頑張っていこう」と参加者へエールを送ってもらった。

（丸山卓哉）

友の会 45 周年記念行事　記念登山

「三戸呂拓也と行くフィールドゼミナール　ー鷹狩山トレッキングー」

《期　日》　9 月 3 日（日）　午前 9 時～午後 3 時 50 分
《場　所》　鷹狩山　大町山岳博物館
《参加者》　約 22 名(+スタッフ 14 名)
《講　師》　三戸呂拓也氏(登山家　国立登山研修所講師)
《進　行》　大西浩氏(元大町岳陽高校山岳部顧問・長野県山岳協会理事長)

(記念登山　役員報告)

せっかく三戸呂さんに来ていただけるので、また、三戸呂さんの皆さんとお話ししたいという希望もあって、山を歩く機会を持った。当初は爺ケ岳も考えたが、スタッフ体制もあり鷹狩山に落ち着いた。安全でゆっくりできて、良かったと思う。

天気は快晴とはいかないが、夕方までは降られる心配もない山日和。ミーティングやストレッチをして出発した。西田均会員を先頭に、三戸呂拓也さんと大西浩さんを中間に挟んだ隊構成。名前のわからないラン、マツムシソウなどを見つけ少しずつ会話も弾む。途中の分かれ道で大西先生の開拓した登山道に入る。その尾根道はかなりきついが明るく、見晴らしがよい。今回の行事にあたって友の会のボランティアで刈り払いもした。現在上田るいさんの走るコースにもなっている。鍬ノ峰の見えるところで小休止。三戸呂さん、大西先生の掛け合いで大町高校で登山道を毎年整備してる大切な山というお話を伺った。

中学生から、80 歳という幅広い方たちに参加していただいたが、11 時過ぎ、無事

山頂に到着。山頂でお話を聞いた後、三戸呂さんが高校時代きついトレーニングをしたという魔の階段の所まで行きみんなでそこを下った。

山の子村には 12 時半到着。ここでは朝から食事班が仕込みを行っていた。

実行委員会では「美味しく、楽しい」昼食ができるよう確認しあった。アルファ米、友の会オリジナルの豚汁をメニューにし、昼食会場を山の子村に決めていた。山の子村を管理されている会員の山内さんに協力のお願いをした。コロナ感染症のため友の会でも 3～4 年会食行事が中断し、プロパンガス器具が使用期間切れとなっていたためこの機会に使用できる手続きもした。そして前日、豚汁 50 人分の食材を「友の会豚汁レシピ」に従って準備した。

登山隊の出発と前後して、山の子村を管理されている山内さん、三戸呂さんのお母さんはじめ友の会会員 6 名は山の子村昼食会場に向かった。山の子村到着後、準備や打合せをして 9 時 40 分から調理開始した。鍋などの調理用具は友の会の用具、不足している調理器具、食器等は山の子村管理棟から借用した。調理は、豚汁、すいとん、チャイの 3 種類。各調理のリーダーを決めて調理した。プロパンガスのコンロが 1 つのため焚火を 1 か所した。焚火はトン汁、湯沸かしにと重宝した。プロパンガスでは、すいとん、チャイを作った。

ボランティアの方々の連携プレイで 11 時過ぎには調理が完成した。登山隊から下山開始の連絡を受け、昼食会場の準備、盛り付けを行った。テーブルとイスは、山の子村の備品を使わせて頂いた。汁物、飲み物(三戸呂さん実家のトマトジュース差し入れも)、ブドウ(こちらは会長差し入れ;スイカを予定したが、暑い夏で時期が合わなかった)、スティック野菜(持ち寄りも)等を参加者が各自でそれぞれの料理を食器に盛り付け易いように、山の子村のかまどを利用してセッティングした。

鷹狩山から下山した参加者は、さっそく各自で盛り付けをして、出発時に用意したアルファ米を味わいながらの昼食となった。鷹狩山出発前に三戸呂さんからアルファ米を昼食に食べられるように作り方の説明を受け、参加者各自で 5 種類アルファ米の中から 1 袋を選んで定量の「水」を袋に注ぎ、各自のザックに入れて出発していた。並べられた食事はほぼ完食された。

椅子等の備品、調理器具、食器等の借用で快適な山の子村では一層「山での食事」の楽しさが味わえたのではないか。本当は、一緒に山に登りたかっただろうけれど、食器、食べ物の差し入れ、用具の貸出、調理担当の会員、協力くださったすべての方々に心から感謝したい。“ありがとうございました。”

食事の後は再び三戸呂さんと大西先生のお話で、山の食事事情や三戸呂さんの食事当番のお話などを伺った。指でこすり取る食器洗いや、食器や装備をいつもきれいにしておくことなど、特にチームで動くときの気の使い方は勉強になった。ドローンを使う様子も見せていただき(私有地内)、ずっと上空から友の会の旗を囲む参加者を撮っていただいた。

山博に戻って、１階の展示を見学し、講堂で締めの三戸呂さんのお話を聞いた。山博がちょうど嘉門次小屋から寄付いただいた所縁のピッケルと猟銃を紹介いただいた後、主に登山装備についてお話を伺った。冬山では、吹雪の時も支障なくできるように、暖かくても手袋を外さずに作業をすることや、テントで敷物にもなるザックを使うなど、極限での体験やそれに備える装備は、機能について考えさせられたし、用品店で様々なタイプが売られていることの意味も認識させられた。

二日間にわたって三戸呂さんにはお付き合いいただいた。参加者も余韻冷めやらぬ 45 周年イベントになった。スタッフの自己満足も、三戸呂さんはじめ、山を山博をいとおしく思う皆さんに支えられていると、思いを新たにした。

（有川美穂子　丸山優子）

鷹狩山山頂記念写真

【感想文】

山岳ユーティリティ　三戸呂拓也さんの公演会

自然から学ぶ姿が謙虚で清々しい

仙波　美代子

「山が教えてくれたもの」というタイトルで始まった大町出身の山岳家・三戸呂拓也さんの講演会は、山について沢山のことを話してくれるだろうという、大方の聴衆の期待を見事に裏切ってくれました。

それは人間として学ぶべき真の姿そのもので、その意味ではタイトルを裏切ってはいません。

38 歳という若さで、あれ程深く山と向き合い、謙虚さを持って自然の熾烈さを受け止め、朝陽のひとすじの温もりに生きていることの実感を抱き、その優しさを感じ取ることのできる感受性の豊かさに感動の連続でした。

自然の驚異に恐れる気持ちや怖い、緊張したといった言葉も随所に出てきました。私が意外に思ったのは、初めてのアイスクライミングが怖かったということ。高校や大学でかなりの経験を積みしごかれているだろうから、怖いという気持ちより好奇心の方が大きいのではないかと思ったのです。でも、初めてなら三戸呂さんでも怖いのだ、と何だか身近に感じて変な安堵感を抱きました。

また、大学で山岳部の主将を務め、卒業でその責任感から解放されたとき、開放されたと思う気持ちを情けない、恥かしいと思うところが彼の人間としての奥深さだと思います。重責から解放されたら誰もが心が軽くなってホッとするでしょう。このあたりから私は人生の様々な時点でこのような考え方が出来なかった自分を恥ずかしいと反省したのでした。

クーラカンリでの雪崩事故で仲間の死を目前にした時の衝撃は、想像を超えるものだと思います。帰国しての報告会に出るのが辛かった時、もう山をやめようかとまで思っていた彼の心を包んだのは「よく帰ってきた」という思いもかけない言葉だったそうです。言葉の持つ力に涙が出ました。

印象に残った言葉の一つに「頑張っていたら誰かが見ていてくれた」というのがあります。これは山に限らず人生のどこかで、できれば若いうちに経験できると、世の中が、人が信頼できる貴重な体験だと思うのです。

もう一つは、「いのちではなく、人生を賭ける目標を持つ」というもの。まだ若い

三戸呂さんには大きな目標を掲げて、これまでに学んだ多くのことを生かしながら、まだ見ぬ新しい景色に向かって突き進んでほしいと、大町の鷹狩山のてっぺんから応援しています。

「三戸呂拓也と行く　鷹狩山トレッキング」

私の心を奮い立たせてくれた二つのことば

仙波　美代子

トレッキング当日まで、体調によっては参加を断念するかもと思っていたのですが、前日の講演をお聴きして是が非でも参加したいと思いました。三戸呂さんとはスケールの違う恥ずかしさで内緒にしていたことですが、変な病に取りつかれてから、筋力を保持したいと時々鷹狩山を登っていた時、同じ日に二度も尾根道のザラ場で前のめりに転び、手首を圧迫骨折したのです。その恐怖感が残っており、グループでの登山だからダメかもと思いながらも私は下の道を行きたい旨、同行の大西さんに申し出ました。すると「大丈夫。一緒に行きましょう。サポートしますから」と力強く言ってくださったので、意を強う持ち、慎重に尾根道を辿りました。無事に林道に出た時、1 年半も恐怖心で歩けなかった尾根道を克服出来て心底嬉しく思いました。大西さんや三戸呂さんからみれば、箱庭の登山みたいなものですが、香麗者となった私にとっては身の丈に合った貴重な山なのです。

山頂では、大町高校の山岳部の顧問でもあった大西先生との掛け合いでお話しされた。高校時代の山岳部では鷹狩山はトレーニングの山で、今では珍しくないトレイルランのように駆け上がっていたとか。その 4 位までが全国大会に出場できたそうで、ご自分の口からはおっしゃらなかったけれど、モチ、三戸呂さんはいつもその中に入っていたのでした。

当たり前だった景色も離れてみると、とても贅沢な環境だったと思ったそうで、私など北アルプスの山々に吸い寄せれるように移住した者は、30 年余り過ぎた今でもこんな素晴らしい所に住んでいるんだもんね、と誇らしく思うのです。

荒天時の山のマイナスの経験もリスクに対しての経験値として役に立つことなど、具体例を挙げながらのお話に、経験することの大切さとそこからしっかり学び取ることの大切さを胸に刻み込みました。

下り道で気を付けていたはずなのにゴロッと石車。転ばなかったけれど冷や汗ものでした。その時、三戸呂さんの歩き方はと思い、後ろへ入れてもらいました。普通に歩いている（笑）。そんなことを思って少し注意が足りなかったか、また私とすぐ後ろの人がゴロ、ゴロッと。同じ道なのに彼はすたすたと行く。石を踏んでるつもりはないのにというと、笑いながら「さっきはちゃんと歩いていたじゃないですか」と言

われ、（私は最年長と言いふらしていたこともあってか）「あ、見てくれていたんだ」とまたまた感激。鷹狩山以外の高い山に行けなかったこの１年半、何度ももう山は諦めるべきなのかと揺れに揺れていたのに、「ちゃんと歩いていた」という言葉に救われて、心の振り子はピタリと止まり、よし、これからトレーニングに励んでまだ登ってない山に挑戦しようと闘志をかき立てたのです。

人生の出会いの大切さ。たとえ一期一会であろうともこの出会いを山の「お守り」にして、安全に山を楽しみたいと思います。

下山途中の山の子村での昼食は、山で食事担当の経験豊富な三戸呂さんの提案のアルファ米と山博友の会定番の豚汁と懐かしいすいとん汁、差し入れのつけもの・トマト・フルーツなど盛りだくさんで、おなかも満足の山ごはん。食事班の皆さんに感謝です。

広場に出てまぶしい空を仰いで、初めてのドローンの被写体体験！山岳カメラマンでもある三戸呂さんのご好意でした。山博に帰って、その映像を観た時、現代に生きてる気分を味わいました。

講堂では食事の大切さ、夏など食器を清潔にする工夫、冬の手袋、ザック、ピッケル、ウエアなどのお話もキメの細かい登山講習のようで、とても充実した二日間でした。

また新しい経験を積んだ三戸呂さんのお話が聴けますように元気で待っていたいと思います。

※文中の文字遣い、言い回しは投稿者の意図するものです。

三戸呂さん講演会 記念登山に参加して

仁科眞清

〇講演会について

中国の山で先発隊が雪崩で亡くなったように、山は死が身近にいる事を再認識しました。山に登る時は必要な装備や知識、自分の体力などを考慮したうえで、どの山に登るのかを計画していく事が大切だと思いました。

〇登山について

日頃から登っている山の良さを見つけながら登るようにしたいです。ドローンの操縦では上空に飛び上がったり自分たちの近くに接近するなど、高度な技術が必要とされている事が分かりました。それと同時に、標高の高い山で操縦できることがすごいと思いました。

烏帽子の会

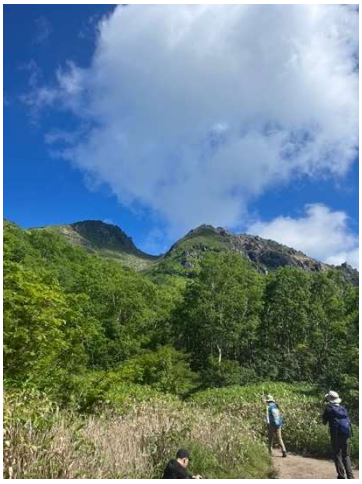
活 動 報 告 《 焼 岳 》

《月日》7 月 22 日（土）　《天気》晴れ(山頂は雲)　《参加者》10 名

《コース状況・感想》

関東甲信越地方が梅雨明けしたと思われる日の山行きなんて、ラッキーって思えますよね。

松川道の駅に集合し、たまにはいつもと違うメンバーで乗り合わせようと、阿久根さん手づくりのクジ引をしたところ、結果は同じような組み合わせになったのは笑えました。途中、湯の郷公園でトイレを済ませ、駐車場の心配をしつつ登山口に到着。満車ではありましたが、何とか駐められて良かった!



準備運動後登山開始。岩場の樹林帯が続き、涼しいと感じていたのは僅かな時間ですぐに汗ばみます。斜面は大きな岩と切り株で息があがりました。薄暗い樹林帯から平地に出て、目の前に青空に浮かぶ焼岳が見え、頑張らねばと気合を入れました。降りて来た若者に、頂上は最高の眺望と言われ期待が高まります。

大きな岩の間を縫うような道に、疲れと足がつりそうになりましたが、皆さんに助けられて、鞍部に着き火口湖を見た時は本当に嬉しかったです。頂上はガスっていて、一瞬上高地が見えただけでしたが、噴出するガスに地球の息吹を感じ、来られて良かったの思いでいっぱいでした。

残念ながら頂上まで行けなかったメンバーも、下

りは皆元気で無事に笑顔で解散できた事が何よりでした。

《コースタイム》

松川道の駅集合 5:00　出発 5:25　→　沢渡湯の郷公園トイレ休憩　→　新中の湯登山口 7:00　→　準備体操後出発 7:10　→　ひらけた平地 9:00　→　南峰分岐鞍部 10:50　→　焼岳北峰頂上到着 11:00　→　（昼食）下山開始 11:50　→　開けた平地 13:00　→　新中の湯登山口 14:30　→　新中の湯登山口出発 14:45　→　風穴の里トイレ休憩　→　松川道の駅到着 16:30　→　解散 16:45

活 動 報 告　《 水木沢自然林 》

《月日》9 月 23 日（土）　《天気》曇り時々晴れ　《参加者》15 名

《コース状況・その他周辺情報》

2019年の大雨で太古の森は通行止めになっていましたが今年から全面通れるように整備されていました。ところどころ花崗岩で崩れやすいところはあったものの整備されて歩きやすかったです。

ただ水木沢自然林の中でも一番きれいなところと言われている沢に大きな木が流されていてまだ手付かずでこれから整備するということでガイドさんが残念がっていました。

前回にはなかったイヤホンガイドというものを使いました。ガイドさんが発信機、

私たち一人ひとり受信機を持ちイヤホンからガイドさんの説明が聞けるもので“元気づくり支援金”を使って購入されたそうです。友の会でも来年エントリーをしようと思いました。

《感想》

2015年に続いて２度目のガイドさんをお願いしての水木沢自然林でしたが、ガイドの圃中さんがとても親切でやさしくまた降旗さんというガイドさんも同行して下さり安全に楽しく歩くことができました。

地元の方ならではの林鉄の話やタムシバの木はお祭りの山車を押すときに使うとか葉っぱは噛むとキシリトールの香りがするとか興味深い話がいっぱい聞けました。

何よりも自然の森の中で自然林と人工林の違いを感じたり、見た目は普通でもキノコが着いていると中身は弱っていて自然と朽ちて倒れ、倒れたところに空が広がり、光が入り次の植物が生まれるというお話を聞いて日頃の日常を忘れてとてもリラックスできました。また季節を変えて計画したいと思いました。

勉強したこと

「木曽五木」・・ヒノキ・サワラ・ネズコ・アスナロ・コウヤマキ

木曽ヒノキと呼べるのは天然林だけで人工林はただのヒノキ

水木沢自然林にはアスナロとコウヤマキはない。木曽福島から南に行くと
アスナロ・コウヤマキはいっぱいある。

ヒノキはいい香りがするけど、サワラは匂わない。
サワラの木は水分を吸収するので住宅壁材とかおふろ、すし桶等に使われる。

根あがりの木は倒れた木を養分にして育ってそのうちその養分の木が朽ち果てて空洞になった木

根あがりの木の森はとても不思議な雰囲気を醸し出していました。

平成 20 年に名水百選に選ばれている。長野県では 4 か所
調べてみました。

まつもと城下町湧水群
飯田　観音霊水
木曽川源流の里水木沢
木島平村　龍興寺清水

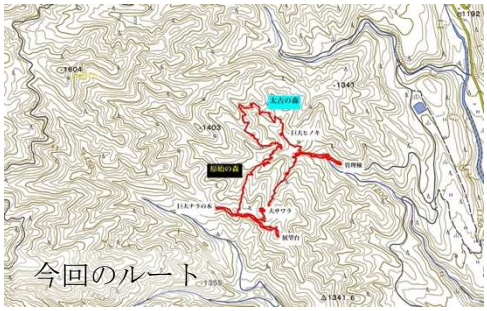
以上 4 か所でした。

あと、自分で驚いたことはガイドさんに源頭部までは大変ですか？とかどのくらい時間かかりますか？とか聞いていましたが、2015 年に源頭部で集合写真を撮っていました。行ったことも忘れていました。コースタイムは今回と同じぐらいでした。8 年の歳月を感じました。

それともう一つ 60 年に 1 度しか花をつけないというクマザサの花を見ることができました。これも圃中さんが教えてくれなければ何気に通り過ぎていたと思います。たぶんいや絶対今回参加した方が次の開花をみることはできないと思います。とても貴重な体験ができました。

《コースタイム》

7:30 松川村道の駅集合 ～ スイス村 5 名合流 ～ 塩尻島さん合流 ～ 9:20 水木沢自然林管理棟 ～ 9:40 原始の森 ～ 巨大ならの木 ～ 11:40 展望台（食事） ～ 大さわら～ 分岐 ～ 太古の森 ～ 巨大ひのき ～ 1:50 管理棟 ～ 2:05 解散



◎11 月山行(11 月 11 日（土）)は、米子大瀑布を道路事情で変更し、山梨県北斗市の「日向山」1660mです。八ヶ岳や鞍掛山・甲斐駒ケ岳の大パノラマや天空のビーチと言われる「雁ヶ原」を楽しみます。

サークル烏帽子の会へのお問い合わせは、事務局（電話：0261-23-6334）まで
（サークル人数が多くなったため、烏帽子の会の新規募集はしておりません。）

ボランティアサークル

博物館と共催した友の会45周年事業、講演会「山が教えてくれたこと」及び記念登山「三戸呂拓也と行くフィールドゼミナール ー鷹狩山トレッキングー」にスタッフとして協力しました。もちろん運営部の企画事業ですが、ボランティアサークルとの兼任も多く、非常にボランティア的に共済事業をサポートし参加者にサービスできたと思います。

最近、Googleマップの山博前の道のストリートビューが更新されました。ボランティアの整備活動の様子が写っていますので是非見てください。

館周辺の除草などはひと段落、冬季は研修なども行っていきたいと思います。

ボランティアサークルへのお問い合わせは、事務局（電話：0261-23-6334）まで

友の会『長野県立歴史館と森将軍塚古墳見学会』
《期日》　2023 年 11 月 5 日（日）　※雨天決行
《時間》　午前 8 時～午後 5 時
募集中です。詳しくは 8 月 20 日発行のお知らせ版をご覧ください。

山岳博物館　**大町自然探検隊**　　**「星空観察教室」**

一年間でもっとも星空がきれいな季節である冬夜の大町で、土星や月など星を観察し、美しい星空について考えます。

日　付：11 月 19 日（日）　　時　間：17 時から 19 時
集合場所：山岳博物館　講堂　　場　所：山岳博物館 講堂、博物館前の駐車場
定　員：15 名　中学生以下は父兄同伴（先着順）　　持ち物：防寒具　懐中電灯
申込み：山岳博物館へ電話またはメール　※雨天の場合は講堂で説明のみ行います

【博物館からの利用案内】
○12 月 8 日まで本館の屋根及び外装改修工事を行っています。大変ご不便をお掛け致しますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。　※工事期間中は 3 階からの展望がご覧いただけなくなっています。
○12 月から 3 月まで、開館・開園時間を次の通り変更いたします。
＜本　館＞　10：00～16：00（入館は 15：30 まで）
＜付属園＞　10：00～16：00（入園は 15：30 まで）
ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

ゆきつばき通信編集室より

友の会 45 周年事業の三戸呂拓也さんイベントは盛会のうちに無事終了することができました。ご参加いただいた方、運営に当たったスタッフに感謝申し上げます。関連する事業に参加された方、ぜひ感想などお寄せ(投稿)いただければ幸いに思います〈送付先　takuya-m@juno.ocn.ne.jp〉。なお、空調の断続運転で話が聞きにくかったり、また、暑く感じる時があり、参加者にはご不便をおかけしました。講演内容を確認したい場合は、博物館で講演内容の資料を閲覧できるようにしてあります。

共催として博物館の皆さんに全面的に協力いただきました。博物館と友の会の力強さを感じた 45 周年です。とはいえ、50 周年はただ 5 歳年をとるだけかもしれず、このパワーが残っているか心もとないところです。三戸呂さんや大西さんのお話からは後の世代を上手に育てていることも感じました。

長く山博副館長を務められ、友の会の面倒を見ていただいた清水隆寿さんが 10 月より文化財センター(古巣)に異動になりました。11 月の長野県立歴史館見学会も講師を務めていただきますし、縁は切れません。「文化財へお茶を飲みに来て」とおっしゃっています。お礼というより、これからもよろしくお願いします。

（丸山卓哉）

ゆきつばき通信　第 197 号
発行／大町山岳博物館友の会　　2023 年 10 月 22 日
〒398-0002　長野県大町市大町 8056-1
大町山岳博物館内　山博友の会事務局　　Tel/Fax 0261-23-6334

山博ページ　http://www.omachi-sanpaku.com/
友の会は、山博の情報発信のために山博ホームページの維持に協力しています